九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Financial Development and Economic Growth in Nepal

ビン，プラサード，ブサール

https://hdl.handle.net/2324/1441021

出版情報：九州大学，2013，博士（経済学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

学位論文審査の結果の要旨

氏　　名　Bhim Prasad Bhusal
論文題目　Financial Development and Economic Growth in Nepal
（ネパールにおける金融発展と経済成長）

論文調査委員　主査　岩田 健治
副査　加河 茂美
副査　瀧本 太郎

本論文は、1930年代以降のネパールにおける金融システムの形成と発展をとりあげ、1984年以降の金融自由化の展開が、同国の金融システムと実体経済にもたらした影響について考察を行っている。

本論文の意義は以下の点である。第１に、最初に商業銀行が創設されインド・ルピーの影響のもとで発展を遂げた初期段階(1937-56年)、政府の統制のもとで緩慢な発展が続いた規制段階(1956-83年)の後、1984年に開始された金融自由化がネパールの金融システム発展の画期となったことを、各種の金融指標を用いて明らかにしている。第２に、同国金融システムの骨格をなす商業銀行を、所有形態別に国内民間銀行、外資との合弁銀行、政府系銀行に分け、1990年代後半以降、政府系に不良債権が累積した一方、合弁系に良好な業績を示す銀行が出現したことを明らかにしている。第３に、金融自由化段階を、①初期の局面(1984-91年)、②新政府下の政策展開局面(1992-2001年)、③不良債権の処理が本格化した局面(2002年以降)に区分し、第２局面でインフレ率や貸出金利の急速な低下が、第３局面で国内民間信用の急拡大が、それぞれ生じたことを明らかにしている。第４に、同国の金融システムの発展と（農業部門とサービス部門の）経済成長との間に長期的な関係が存在する一方で、工業部門との間にはそうした関係が存在していない点を共和分分析により明らかにしている。

全体として、本論文はネパール金融システムの歴史的発展を踏まえながら、1980年代以降の金融自由化が同国の金融システムと実体経済の一部に積極的影響を与えたことを明らかにし、また同国金融システムが直面する諸課題についても指摘している。本論文で得られた結果は、途上国の金融システムの発展を巡る研究に新しい知見をもたらしているものと評価できる。

外資系銀行のパフォーマンスや各種の産業部門向け与信に関するより立ち入った分析、より詳細な構造変化の検証など、一層の解明が望まれるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、Bhim Prasad Bhusal 氏より提出された論文 Financial Development and Economic Growth in Nepal を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。